

1. 調査概要

(1) 目的

- ① 島嶼部を含む宗像市全般の昆虫類の分布概要をつかむと共に、そこに生息する希少な昆虫や学術的に貴重な昆虫の生息状況を把握する。また、過去の分布記録との比較を行い、生息状況の時間的変化について把握する。
- ② 希少な昆虫や学術的に貴重な昆虫の生息地として重要な地域の抽出を行う。

(2) 調査対象と調査対象地域

- ① 昆虫類の内、「コウチュウ目」と「チョウ目」の内の「チョウ類」を調査範囲とし、その中のすべての科を対象とした。

昆虫類は、国内で記録された種だけでも4万種に及び、宗像市でも恐らく数千種に及ぶに違いない。生息環境、発生期、生態は様々であり、採集方法も多岐にわたる。従って、わずか1年の調査期間に現在の調査体制でこれらすべてを調査することは到底不可能である。何よりもすべての種の同定を行おうとすれば、多くの専門分野に分かれ、多くの専門家が必要となる。

そこで、調査者らの同定能力や、生息環境や採集方法、過去の記録の状況等から「コウチュウ目」と「チョウ類」を調査の対象とした。

特に意識的に重点的な調査を行った種はなく、環境指標となる種、又は、希少種、学術的貴重種も含めてすべての種を対象に調査を行った。

- ② 調査対象地域は、宗像市自然環境調査研究会が候補にあげた16の重点調査地域の内、釣川水系の3ヶ所を除く13ヶ所とした。但し、何ヶ所かは、多少調査対象地域を変えている。ここには昆虫の生息にとっても代表的な地域が含まれているものと考えられ、独自の補足調査地域は設けていない。昆虫類の重点調査地域及び環境特性等は【表8-1】【地図8-1】【地図8-2-(1)】【地図8-2-(2)】の通りである。

(3) 調査方法

① 既存資料調査

本市の昆虫類に関する既存資料については、旧宗像市（主に城山）、旧玄海町（地島を含む）、旧大島村（沖ノ島を含む）地域の昆虫相の調査記録がある。これらのほとんどはコウチュウ類であり、チョウやその他の昆虫の記録はわずかである。ほとんどが、詳細な調査の上で報告されたものである上、いずれの資料にも重要な種の記録が含まれている。また、中には新種の原因記載も含まれるので、見過ごすことはできない。

ただ、記録としては1990年代までであり、これをどの程度採用するかという問題が出てくる。幸いなことに、宗像市における既存資料の調査対象となった

地域はほぼ当時の環境が保全されている。従って、既存資料についても、断った上で今回の調査の対象としている。

なお、これら既存資料については、すべて調査している。それらは5の「引用文献」に掲載されているものである。

② 現地調査

現地調査は、コウチュウ類を対象に主に叩き網によるビーターティングにより行った。必要によって、捕虫網も使った。大島とさつき松原では、ブラックライトを使った灯火採集も行った。沖ノ島ではこれらに加え、ベイトトラップによる調査や土壌昆虫の調査も行った。

種の同定は、顕著なものについては現地で行い、不明なものはすべて持ち帰って行った。従って、標本については持ち帰ったもののみ保管している。

③ アンケート調査

昆虫の場合、小さな種が多く、その上近似種も多く、一般の者が現地で見ても簡単に同定できる種は極めて限られている。

従って、アンケートには、ある程度大きく、近似種がない、美しい模様があるなど顕著な種6種を選んで行った。

(4) 調査日時

現地調査の日は【表8-2】の通りである。